

第1学年 道徳科学習指導案

令和3年11月26日（金）5校時

1 主題名 住みよい社会の実現 【内容項目 C 遵法精神、公德心】

2 ねらいと教材

(1) ねらい

ルールやマナーを守ることで他者を大切にすることを考える学習を通して、お互いに気持ちよく暮らせる社会の実現に努めようとする態度を育てる。

(2) 教材名

「傘の下」（出典：新・中学生の道徳「明日への扉1年」学研教育みらい）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

人が集まって社会が形成されると個人の利益がぶつかり合って集団のまとまりがなくなり、結局一人一人の願いが実現できないことがある。「法やきまり」は、この集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人々が知恵を出し合って考えられたものである。遵法精神は、公德心によって支えられている。公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にすることであり、一人一人の日常生活において具体的に生かされることで、住みよい社会が形成される。公德心をもってルールやマナーを守ることで、住みよい社会が実現されるのである。

指導に当たっては、ルールやマナーを守ることは「自分自身を裏切らない」という自尊心の強さと目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からはうかがい知れない思いやりの心に関わっていることに気付かせたい。

これらを踏まえて本時の教材では、安心して社会生活を送るために日常生活の何気ない行為であっても、自己中心的な言動を控え、ルールやマナーを守ることの大切さと他者に思いを馳せることの必要性を深く考えさせたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

小学校の高学年では、「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たすこと」を学んできている。本学級の生徒は、自分に与えられたことを真面目に取り組み、ルールやマナーを守って学校生活を送ろうとする生徒が多い。「ダメなことはダメ」とお互いに声をかけ合うことができるが、自分本位な言動が見られることもある。本時の学習を通して、周りの人の温かい思いやりの心に支えられながら、公德心を重んじ進んでルールやマナーを守り、安心して生活できる社会を築いていくことの大切さを考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

主人公の「僕」が通院している病院で治療を終え帰宅しようとしたときには、雨足がさらに強くなっていた。入口そばの傘立てには、置き忘れたらしい数本の傘が放置してある。傘を持っていなかった「僕」は、自分の傘を探しているように振る舞い、一番奥にあった紺色の傘を手にした。このとき、雨の中を傘も差さずに「僕」を追い越していった女性の姿がなぜかいつまでも頭から離れない。5日後、再び通院し紺色の傘を元の場所に返し、「僕」はなんとなくほっとする。治療を終えて玄関に向かっていたとき、雨の中を駆けていったあの日の女性が「僕」の前であの紺色の傘を手を玄関を出ていった。

自分さえよければいいという自己中心的な主人公と寛容な女性の姿を通して、ルールやマナーを守ることが他者を大切にすることや個人の自由が保障されることにつながることを理解させ、よりよい社会の実現は思いやりの心に支えられていることも考えさせたい。

- 4 研究課題「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫改善との関わり
 悪いことと分かっているながら、自分さえよければいいという考えの「僕」の行動が周りの人に迷惑をかけたことや女性の優しさにより自分が守られたことを十分に感じ取らせた。また、自分の行動の誤りに気付いたときどう行動すべきかを役割演技を行い、「僕」と「女性」それぞれの思いを探り、ねらいに迫りたい。

5 学習指導過程

	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点 ○キャリア教育の視点
導入	1 社会のマナーに関する意識調査をする。 ①どんな時も必ず守る。 ②守れないときもあるけれど、できるだけ守りたい。 ③ちょっとくらい守らなくてもいいやという気持ちがある。 ④臨機応変に対応していく。	・自分の考えに最も近い項目に挙手する。	・授業前、オルゴールの音で心を落ち着かせ道徳授業の雰囲気作りをする。 ・黒板に数直線をつくる。 ・自分の意識がどの位置にあるか考えさせ、授業への意欲を高める。
展開	2 状況の確認をする。 主人公「僕」、女性 ・冷たい雨が降り始める季節に思い出す苦い思い出 ・多くのことを教えてくれた出来事 ・外は雨が降りだし、だんだん強くなっている。 ・「僕」は、傘を持っていない。		・教材の条件・状況を説明し、今日の学習課題を示す。
お互いに気持ちよい社会を築くためには？			
	3 教師の範読を聞く。 ・心に残る場面に線を引きながら聞く。	・教材の内容を捉える。	・「僕」の心情の動きに注目させながら範読する。
	4 範読を聞き、心に残った場面を発表する。 「僕」の問題点について考えを整理する。 ・他人の傘を勝手に借りる場面 ・雨の中を走っていった女性の姿が頭から離れない場面 ・借りた傘をもとに戻し、ほっとした場面 ・借りた傘があ女性の物だと気付いた場面		・場面絵を貼りながら、話題とする場面を押さえる。
	5 自分の考えをもとに話し合う。 (1) 他人の傘をさして帰った「僕」の行為は、なぜ問題なのか。	・自分勝手すぎる。 ・他人の物を勝手に使うのはよくない。犯罪だ。 ・自分に甘い。 ・持ち主のことは考えず自分のことしか考えていない。	・自分の都合を優先して判断してしまった「僕」の心の弱さや醜さに共感させる。 ・そんな「僕」をどう思うのか、どんな気持ちだったのか等問い返していく。

	<p>(補助質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「僕」は、どうすればよかったのか。 <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨の中を走っていった女性の姿が頭から離れないのは、なぜなのか。 <p>(2)「僕」が教えられたこととはどんなことか。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分の考えをワークシートに記入する。 ②4人班で意見交換をしホワイトボードにまとめる。 ③全体で意見を共有し、深める。 <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5日後に返したからいいのではないか。 <p>(3)借りた傘がああ女性のものだと気付いたとき、どんな行動をとったか。 【役割演技】</p> <p>6 「お互いに気持ちよい社会を築くために必要なことは何か」を振り返りシートに記入し、自己を見つめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち主にとっては迷惑。 ・濡れて帰る。 ・家に電話をかける。 ・受付の人に相談し、傘を借りる。 ・目が合った気がして、気まずかった。 ・もしかして、気づかれているかも。 ・「少しぐらいは」という考えはダメ。 ・自分勝手な判断は、誰かに迷惑をかける。 ・周りの人にいやな思いをさせないようにしよう。 ・自分の周りの人のことも考えよう。 ・ルールやマナーを守ってお互い気持ちよく生活していきたい。 ・自分本位な考えや行動だ。 ・持ち主に迷惑をかけた事実は消えない。 ・何の行動もせず、女性を見送った。 ・「ありがとうございました」と心の中でつぶやいた。 ・追いかけて謝る。 ・みんなが気持ちよく生活するためにきまりがあり、守ることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に都合のいいような行動をする前に解決策があったことを捉えさせる。 ・悪いと分かっているでも他人の傘を借りてしまった「僕」にも罪悪感があることを捉えさせる。 ・個人で考えた後、グループで意見交換し友達の意見を参考に自分の考えを深める。 ・女性に対する思いだけに留まらず社会の規律を守ることの大切さについて、多面的・多角形に考えさせ、ねらいに迫る。 ☆話合いを通して、道徳的価値の理解を深めているか。 ○人間関係形成・社会形成能力 [他者とよりよくコミュニケーションできる生徒] ・借りた傘を元の場所に返した「僕」がほっとしたときの心の内を考えさせる。 ・参観者の先生に女性役をお願いする。 ・「僕」「女性」のそれぞれの思いを感じ取らせる。 ・書く活動で自己を見つめさせる。 ☆お互いに気持ちよい社会を築くために必要なことは何かを理解することができたか。
終末	7 なぜ「傘の下」という教材名なのか。	・「傘＝社会のルール・マナー」であり私たちは、この傘の下で安心安全な生活が守られている。	・生徒の言葉をつないでまとめていくようにする。

6 他の教育活動との関連

事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学活の時間「入学から半年が過ぎた今、学校生活を振り返ってみよう」を通して、よりより学級にするという視点で学級会を行った。 ・マナーについて考えよう。
道徳科	<p>教材名「傘の下」</p> <p>ルールやマナーを守ることは他者を大切にすることにつながることを理解し、お互いに気持ちよく暮らせる社会の実現に努めようとする態度を育てる。</p>
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの問題点をみんなで知恵を出し合い、改善策を考え取り組んでいく。 ・道徳コーナーの掲示物「人生を豊かにするプロジェクト」を通して、授業の振り返りの共有を図る。 ・仲間のよい面を見つけ互いに高め合う姿勢を育てる。（学期賞状の活用）
家庭との連携	<p>本時の授業内容や生徒の振り返りを学級通信で紹介して、家庭での話題にしてもらう。</p>

7 評価の視点


【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ルールやマナーの意義、それを守ることの大切さについて考えを深めている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・ルールやマナーが自分たちを守るだけでなく、安心、安全な社会にしていることに気付き、住みよい社会にしていこうという意欲が高まっている。

8 板書計画

<p>場面絵</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>借りた傘がああ女性のものだ気づいたとき 僕は……</p> </div>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>6班</td><td>1班</td></tr> <tr><td>7班</td><td>2班</td></tr> <tr><td>8班</td><td>3班</td></tr> <tr><td>9班</td><td>4班</td></tr> <tr><td colspan="2" style="text-align: center;">5班</td></tr> </table>	6班	1班	7班	2班	8班	3班	9班	4班	5班		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「僕」の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に甘い ・自分のことしか考えていない ・持ち主にとっては迷惑 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>場面絵</p> </div>	<div style="text-align: center;">  <p>教材名 傘の下</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・苦い思い出 ・多くのことを教えてくれた出来事 ・雨が降り出し、だんだん強く ・「僕」は傘を持っていない <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">「僕」</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">女性</div> </div>
6班	1班												
7班	2班												
8班	3班												
9班	4班												
5班													